

1 津山市重点取組

津山市立院庄小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	①学力向上担当者 ②各担任 ③各担任 ④各担任 補充学習支援員 特別支援担当教員	①全国学力テスト・県学力テストの結果を分析し、授業改善に生かすことができるよう、研修を深める。 ②本校の課題である「書くこと」に重点を置き、学年に応じた指導を系統的に行う。 ③学年に応じた自主学習に全学年で取り組ませ、「学年×10分」の家庭学習時間が確保できるようにする。 ④小テストや放課後補充学習により、児童の個別のつまずき解消を進める。 ⑤メディアの利用実態を把握し、児童への学級指導に生かしたり保護者へ声をかけたりする。	①1学期中 ②学力定着状況確認テスト ③年間を通じて ④年間を通じて	①全国学力・県学力の結果を分析し、児童が強みを伸ばし弱みを克服できるような授業づくりについて、チームで研修を深める。 ②全学年、授業中に「書く」場面を設け、字数制限やキーワードを使うなどの「条件」に合わせた文章を書かせ、学んだことを条件に応じて書く力を伸ばす。また、毎週金曜日の朝学習で全学年「書く」領域のプリントをする。 ③学年に応じた自主学習に取り組ませ、担任は工夫して評価し、次への意欲につながるようする。また、お手本ノートを廊下に掲示したり学習進度で紹介したりし、励みになるようにする。 ④漢字や計算の小テストをくり返し行い、補充学習につなげる。週2回、放課後補充学習で個別指導を行う。 ⑤児童のメディア利用実態を把握するため「チャレンジ！メディアコントロール週間」カードを年間6回行う。また、メディア利用のマナー向上や利用規制を呼びかける標語を作成し、掲示・表彰・PTA新聞掲載する。 ⑥学級懇談や地区懇談会を活用し、継続して「メディアコントロール」「家庭学習」について話し合う。	①授業がわかると肯定的に回答する児童が80%以上 ②条件に合わせた文章が書ける児童が90%以上 ③自主学習を含め、決まった時間、家庭学習ができる児童90% ④メディアコントロールが自分でできる児童が90%以上
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	①各担任・児童会 ②各担任・PTA	①メディアについて、また家庭学習への取組状況について、継続して保護者と話し合う。	①年間を通じて ②年間を通じて		

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国学力テスト(6年生)</p> <p>○国語科・算数科とも、全国平均と比べて正答率は低い。傾向として、記述式で答えることに課題がある。</p> <p>○国語：目的に応じて文章の内容を的確に押さえて、考えを明確にしながら読む(選択式)：本校81.8%(全国80.7%) ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめて記述：本校45.5%(全国68.2%)</p> <p>○算数：棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る(選択式)：本校97.0%(全国95.2%) ・単位量当たりの大きさをもとに求め方と答えを記述：本校42.4%(全国62.6%) ・1人当たりの水の使用量の増減を資料から判断し、理由を記述：本校33.3%(全国52.1%)</p> <p>県学力テスト(3・4・5年生)</p> <p>○5年：国語科は「話す・聞く」領域は県平均に近かったが、「読む」「書く」領域は県平均を下回った。 算数科は全領域に課題があり、今後の取組が大切となる。</p> <p>○4年：国語科は「書くこと」「読むこと」「言語」領域ともに県正答率を上回った。「話す・聞く」領域のみ、県正答率をやや下回った。 算数科は「量と測定」領域は県正答率を大きく上回った。「数と計算」「図形」領域が「ほぼ県正答率と同程度」であり、「数量関係」領域のみ課題がある。</p> <p>○3年：国語科は全領域において県正答率を上回った。 算数科は「数と計算」領域は県正答率を上回ったが、「量と測定」「図形」領域にやや課題がみられた。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○「将来の夢や目標をもっている」「学校に行くのは楽しい」「難しいことにも挑戦している」「地域の行事に参加している」などに「当てはまる」と回答した児童は全国を上回り、前向きに学校生活を送っていることがわかる。</p> <p>○「家で1時間以上学習している」児童の割合が全国をやや上回った。本校66.7%(全国66.1%)</p> <p>○「家で自分で計画を立てて勉強している」児童の割合が全国と比べて多い。本校78.8%(全国71.5%)</p> <p>○「自分にはよいところがある」と答えた児童が全国より10ポイント程度下回った。</p> <p>○「読書好き」と答える児童が、全国と比べて8ポイント程度低い。</p> <p>○「テレビやゲームをする時間を家の人と決めている」児童は、県と比べて上回った。本校78.3%(県70.2%)</p> <p>○「平日テレビゲームやスマホの使用1時間以上」の児童が、県と比べてやや上回った。</p>

成果	課題
<p>○継続して「伝え合う力」を伸ばす研究を進めているので、国語科における「話すこと・聞くこと」の平均正答率は全国平均値に近い。</p> <p>○昨年度から「読む力」を伸ばすため、全学年で授業に「音読」を取り入れてきたが、その成果が表れ、「読むこと」の平均正答率は全国平均値に近い。</p> <p>○昨年度から比較して、記述の無回答率は減っており、児童の成長がうかがえる。</p> <p>○校内研究として算数科の「図形」領域の授業改善に取り組んでおり、他の領域と比較して平均正答率が高い。</p> <p>○継続的に、家庭学習(自主学習を含む)に取り組む力を伸ばす指導をしており、決まった時間家庭学習をしている児童の割合が全国平均値を上回った。</p> <p>○地域からのサポートが手厚く、普段から地域の方とのふれあいが多く、地域の活動に参加している児童の割合が高いと考えられる。</p> <p>○普段から、縦割り活動や登下校など高学年が活躍する場面が多く、前向きに学校生活を送っている児童が多いと考えられる。</p>	<p>○国語科・算数科ともに、「選択式」で答える問題は比較的正答率が高く、「記述式」で答える問題に課題がある。</p> <p>○「言語」についての知識・理解・技能が全国平均値を大きく下回り、漢字の定着に課題がある。</p> <p>○学校生活は前向きに送っているが、自己肯定感が低い児童が多い。</p> <p>○朝ごはんや就寝時刻など、基本的な生活習慣に課題がみられる。</p> <p>○テレビやスマートフォンなどのメディアに接している時間が長く、SNS等の使用が人間関係にもかかわっているという実態がある。</p>

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
「書くこと」を中心とした 国語の基礎的学力の向上	毎学期末	○学力定着状況確認テストにおいて、2問、県平均正答率を上回る。	○授業で書く場面を設け「条件」に合わせた文章を書かせる。 ○毎週金曜日の朝学習で全学年「書く」領域のプリントをする。 ○漢字の学習を小テストでチェックする。また、文章中の言					
「図形」領域を中心とした 算数の基礎的学力の向上	毎学期末	○学力定着状況確認テストにおいて、2問、県平均正答率を上回る。	○授業において、求め方や理由を「記述式」で答える場面を積極的に設ける。 ○定期的に図形プリントを家庭学習に出し、前学年までの復習を行う。					
充実した家庭学習の定着と メディア利用	毎学期末	○家庭学習時間「学年×10分」の定着 ○メディアコントロールが自分でできる力の定着	○「基礎学力の定着＋自主学習」という家庭学習スタイルを確立する。 ○年間6回の「チャレンジ！メディアコントロール週間」カードで実態把握と指導を継続する。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(60%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○津山西中学校ブロック重点5項目「家庭学習100%」「チャイムスタート」授業の中で学び合い『言葉づかい』『きれいな教室』を目指す。</p>	<p>○「早寝・早起き・朝ごはん」など、基本的な生活習慣の定着をお願いする。</p> <p>○メディア利用について前向きに考えていただくよう、チェックカードや標語づくりなどに協力していただく。</p> <p>○学級懇談で自主学習の取り組み方について共通理解を図ったり、メディアとのかわり方について話し合ったりする。</p> <p>○地区懇談会で、自主学習やメディアコントロールについて話し合う。</p>